

## 施術報告の書き方

(公社)日本アロマ環境協会 学術・精油委員会

### 1. 施術報告とは？

アロマセラピーの施術(トリートメント)で得られた知見を論文の形で報告するものです。

### 2. なぜ施術報告を書くの？

日々の施術で蓄えたアロマセラピストの皆さまの貴重な施術経験をぜひ AEAJ 発行『アロマセラピー学雑誌』に投稿してください。

精油選択やカウンセリングの工夫から得られる小さな発見、トリートメント技術の改良から得られた思いがけない事象など、皆さまのご経験から蓄えられたアロマセラピストの知恵は、書籍からは得難い貴重な財産です。

日々の施術で得られる知見を、施術報告にまとめてみましょう。まとめることで、自分自身にも新たな発見につながります。また、学雑誌に投稿することによって、研究者や、医療従事者、講師の方々など、幅広く情報が共有され、研究、介護、看護、美容など、様々な分野の発展に寄与します。

一人のアロマセラピストが出会えるケースは限られますが、ケースを報告し共有しあうことで、アロマセラピストの施術経験の引き出しが新たに増えていくでしょう。施術報告の書き方を知って、まずは書いてみましょう。



### 3. 受け手に説明し、同意をとりましょう (インフォームドコンセント)

施術事例を、施術報告として投稿しようとする場合には、まず施術の受け手の同意を得ることが必要です。目的や方法、施術により起こりうる不快感・危険、プライバシーの保護、一度同意をした後も同意をいつでも撤回できること、『アロマセラピー学雑誌』に投稿しようと考えていること、審査を通ると『アロマセラピー学雑誌』に掲載されることなどについて、受け手に十分な説明を行い、同意を文書で得る必要があります。

また、『アロマセラピー学雑誌』へ投稿する際の申込用紙には、受け手の同意を得た「インフォームドコンセント取得日」を記載し、論文にはインフォームドコンセントを得ている旨を明記します。なお、申込用紙、論文いずれにも、受け手の個人名を記載してはなりません(プライバシーの保護)。

詳細は、『アロマセラピー学雑誌』投稿規程および投稿の手引きを確認してください。

## 4. 施術報告の構成

施術報告の構成は以下を参考にしてください。

項目	内容
1. はじめに	このケースを報告する動機、目的、施術の中でテーマとした点などを丁寧に述べる。
2. 方法	2-1～2-4 に沿ってまとめていく。
2-1 対象	対象者の背景(性別、年代、主訴など)、実施期間など。 また、本施術報告の趣旨について十分な説明を行ったうえで、文書による同意を取得していることを記載する。
2-2 精油と基剤	使用した精油(製造元あるいは販売元)、基剤(製造元あるいは販売元)、濃度、使用量などを記載する。
2-3 施術方法	施術の種類(トリートメント、足浴、芳香浴など)、施術部位、施術時間(30分、60分など)、施術期間(3か月間あるいは6か月など)、施術頻度(2週間に1度など)を記載する。
2-4 評価方法	症状の程度を客観的に記載(例 むくみの場合、踝から5cm 上部の周径 cm など)し、評価したのはいつか(施術前と施術何日後かなど)、評価したのはだれか(クライアント本人の自己評価、あるいは施術者による他覚評価など)。
3. 結果	施術ごと、あるいは施術実施期間前後の自覚所見、他覚所見など、結果を記述する。
4. 考察	結果につながった要因は何かなど、これまでの研究例などから自分なりに分析し、考察する。
5. おわりに	全体のまとめと今後の課題などについて述べる。
6. 謝辞	クライアントや協力していただいた方、指導いただいた先生方に対して感謝を述べる。
7. 引用文献	投稿する雑誌の規定に沿った形式で、引用論文を記載する。

## 5. 『アロマセラピー学雑誌』での施術報告の掲載例

- 1) 梅原みずほ:アロマセラピー施術の効果と留意点, アロマセラピー学雑誌, Vol.1, 22-24(2001)
- 2) 安珠:アロマセラピー施術によるストレス性不調の改善例, アロマセラピー学雑誌, Vol.3, 19-28(2003)
- 3) 石井陽子, 中谷真澄,三浦徹:アロマセラピートリートメントは運動によるストレス解消効果を増す, アロマセラピー学雑誌, Vol.7, 29-39
- 4) 近藤朱音, 近藤真由, 橋本奈那美, 海津鮎美, 鈴木知美, 橋本千果, 小田しおり, 石本人士:入院中の妊娠女性に対するアロマセラピーを用いたリラクゼーション効果についての検討, アロマセラピー学雑誌, Vol.12, 86-91